

生活習慣病、がん、認知症、ADHD…クスリと病気完全解明

明治28年11月14日第3種郵便物認可  
第6259号 2010年5月8日発行  
毎週月曜日発行(4月26日発売)  
ISSN0918-5755

Weekly  
Toyo Keizai

# 週刊 東洋経済

2010  
**5/1-8**  
【合併特大号】  
特別定価 750円

www.toyokeizai.net

# クスリ

# 全解明

## +先端医療

再生医療  
臨床研究  
最前線

早期発見!  
採血だけで  
がんを見つける

### がん

肺・胃・大腸・肝臓・腎臓  
膵臓・食道  
乳・子宮・卵巣・前立腺  
抗がん剤副作用

### 難病

アルツハイマー病  
自己免疫疾患  
子どもの発達障害  
慢性疼痛

アスペルガー症候群  
自閉症  
ADHD(注意欠如・多動性障害)  
LD(学習障害)

### 生活習慣病

高血圧/脂質異常症  
糖尿病  
慢性腎臓病  
高尿酸血症/痛風  
失明に至る眼の病気

潰瘍性大腸炎  
クローン病  
関節リウマチ  
乾癬

帯状疱疹  
がん疼痛

## 郵貯膨張!

第2特集

亀井郵政担当相  
インタビュ

**昨** 年11月、漢方の世界は「保険外し」をめぐる大いに揺れていた。政府の事業仕分けで、「湿布薬、うがい薬、漢方薬などは薬局で市販されており、医師が処方する必要性が乏しい」という理由で、公的医療保険の対象から外すという方針が下されたからだ。これに漢方薬を処方している医師や患者が大反発。結局政府は12月には方針を改め、保険適用を継続することとした。

目の漢方薬が健康保険適用となり、医療の世界で復活を遂げる。そして2001年に文部科学省により策定された医学教育モデル・コアカリキュラムの中に漢方医学が採用され、今ではすべての医学部で漢方医学の講座が設置されている。製薬会社の立場から、長年漢方普及に向けた情報提供を行ってきたツムラも「コアカリキュラムに漢方が入ったから、大学の姿勢は大きく変わってきた。今後は漢方の知識と理解を身に付けた医師や、大学で漢方を教えられる人材の層が厚くなるだろう」（松田隆志・医薬営業本部漢方推進部長）と語る。

査によれば、8割以上が漢方薬を「処方している」と答えている。こうした背景には、西洋医学の限界を補うものとして、漢方の役割が見直されていることがある。漢方の診断は、西洋医学の診断とは大きく異なる。西洋医学が病気や症状に薬を処方するのに対して、漢方では「証」といって、問診や腹診などを通して患者の身体の状態を判断し、その状態に合わせた薬を処方する。同じ病気や症状でも、身体の状態や体質によって、処方する薬は変わる。

治が難しい病気において、漢方を用いた治療が効果を発揮しているという成果が出ている」と語る。

慶應義塾大学医学部漢方医学センターの渡辺賢治センター長は、この騒動を通して「逆に漢方がいかに人々に深く根付いているかを痛感した」と語る。渡辺氏は日本東洋医学会の健康保険担当理事として、漢方薬の保険適用継続を求める署名集めに奔走。集めた署名数は、わずか3週間で約92万5000人にも上ったからだ。「医療分野の署名としては、驚異的な数値」と渡辺氏は言う。

近代以降、日本では西洋医学を中心とした医学教育が行われ、漢方薬は医療の表舞台から姿を消していった。しかし1976年に41処方54品

つまり西洋医学が「症状の治療」に力を注ぐのに対して、漢方は患者の「身体の状態を回復、改善」することを重視する。西洋薬の投与だけでは副作用が強い場合や、治療効果が限定的な場合などに、漢方薬を処方するなど、西洋薬と漢方薬をうまく組み合わせることによって、患者のQOL（生活の質）を上げたり、従来は根治困難だった病気を治すというわけだ。渡辺氏も、「がん治療に伴う副作用の緩和や、アトピー性皮膚炎、膠原病など西洋医学では根

がん治療でも効果発揮  
エビデンスの確立も



漢方薬は生薬の組み合わせ。医療用漢方製剤は生薬を煎じて濃縮し、乾燥させたものを用いる

また08年からは、「漢方内科」「漢方小児科」というように、診療科名に「漢方」の名前をつけることができるようになった。さらには保険外しの動きとは矛盾するが、民主党も「西洋医学と漢方を含めた東洋医学を組み合わせた統合医療の推進」を打ち出している。医療に漢方薬を用いる医師も着実に増え、日本漢方生薬製剤協会が医師を対象に行った調

「科学的根拠に基づく医療」を確立しようという動きも始まっている。ツムラでは06年から、新薬での治療薬の開発が進んでいない疾患で、漢方薬を用いた治療効果が期待できるものに着目し、その薬効と安全性を実証する「育薬」を強化。対象に選んだ漢方薬は、「大建中湯」「抑肝散」「六君子湯」の3処方だ。

大建中湯は、消化管の手術後に起きるイレウス（腸閉塞）や過敏性腸症候群などの患者に用いられる。腸管の血流を増加させる大建中湯の働きに着目したものだ。また抑肝散は、認知症の周辺症状（徘徊、妄想、睡眠障害など）への処方を目指している。抑肝散は夜泣きが激しい子どもに使われるなど興奮性を抑える働きがあるが、これが認知症の周辺症状の改善にも効果があることを実証しようとしている。そして六君子湯は、機能的胃腸症や胃食道逆流症などの患者に用いられ、食欲増進などの作用があることの実証を進めている。

ツムラが育薬に乗り出した背景には、「漢方薬にはきちんとした効果があることを、科学的な根拠を持つ

## 「保険外し」に92万人の反対署名

COLUMN

# がんや認知症でも効果発揮

# 漢方薬はとてつまで効くのか

漢方薬の処方者が医療の現場で広がりつつある。西洋医学的な観点から世界的な普及を進める動きもあるが、その背景にはさまざまな議論がある。

手術、放射線治療、抗がん剤の治療を受けたがん患者は、気力や体力が低下し、「元気がなくなり、さらに不眠、口渇、食欲不振、手足の冷えやしびれといった症状にも苦しんでいる。「患者の気力や体力を回復し、苦しみを和らげるために漢方薬は極めて有用」と星野氏は言う。

星野氏は、患者に元気を回復させるために、がん患者に特有の「癌証」に有効な「補中益気湯」「十全大補湯」「人参養榮湯」などの漢方補剤を投与する。これに加えて抗がん剤による口内乾燥といったさまざまな症状を改善するため、患者の「証」に

応じた漢方薬を複数組み合わせている。「がんが進行して、寝たきりとなった患者でも、漢方治療によってがんと共存できることがある」と星野氏は言う。食道がんの手術後に、頸部リンパや肺にがんが転移し、余命3カ月とされた患者は、呼吸困難が強く酸素を吸いながら受診したが、人参養榮湯などにより症状が劇的に改善し、亡くなるまでの5カ月間に、家族と2回の海外旅行を楽しむことができたという。

一方で、これまで「証」に基づいて処方されてきた漢方薬を、西洋医学的な観点から薬理作用の解明や薬効についての評価を行い、エビデンス

一方、これまで「証」に基づいて処方されてきた漢方薬を、西洋医学的な観点から薬理作用の解明や薬効についての評価を行い、エビデンス

一方、これまで「証」に基づいて処方されてきた漢方薬を、西洋医学的な観点から薬理作用の解明や薬効についての評価を行い、エビデンス

また抑肝散は、認知症の周辺症状（徘徊、妄想、睡眠障害など）への処方を目指している。抑肝散は夜泣きが激しい子どもに使われるなど興奮性を抑える働きがあるが、これが認知症の周辺症状の改善にも効果があることを実証しようとしている。そして六君子湯は、機能的胃腸症や胃食道逆流症などの患者に用いられ、食欲増進などの作用があることの実証を進めている。

「対象とした3処方とも、エビデンスの積み上げが着実に進められており、アメリカのトップ医学専門誌に論文が発表されるなど、西洋医学の現場でも漢方薬が認められつつある」と高崎氏は語る。

ただし、漢方の基本的な考え方は、患者の身体の状態や体質に合わせて処方する薬を変えてこそ、初めて効果を発揮するといふものだ。エビデンスの確立は重要だが、普及の段階で、「○○の病気には○○の漢方薬」といった形で、診断名によって薬が処方されるようになると、漢方薬独自の特徴をうまく生かせなくなってしまうことになりかねないので、注意が必要だ。

こうした課題も含めて、漢方薬は今医療の現場で、これまでにない注目を集めつつある。

こうした課題も含めて、漢方薬は今医療の現場で、これまでにない注目を集めつつある。

こうした課題も含めて、漢方薬は今医療の現場で、これまでにない注目を集めつつある。

薬名	効能または効果
だいけんちゅうとう 大建中湯	腹が冷えて痛み、腹部膨満感のあるもの
よくかんざん 抑肝散	虚弱な体質で神経が高ぶるものの次の症状:神経症、不眠症、小児夜泣き、小児癇性
りっくんしゅう 六君子湯	胃腸の弱いもので食欲がなく、みぞおちがつかえ、疲れやすく、貧血性で手足が冷えやすいものの次の症状:胃炎、胃アトニー、胃下垂、消化不良、食欲不振、胃痛、嘔吐
けいしきりょうがん 桂枝茯苓丸	体格はしっかりして赤ら顔が多く、腹部は大体充実、下腹部に抵抗のあるものの次の症状:子宮なびにその付属器の炎症、子宮内膜炎、月経不順、月経困難、帯下、更年期障害(頭痛、めまい、のぼせ、肩こり等)、冷え性、腹膜炎、打撲症、痔疾患、卵巣炎
ばくもんとう 麦門冬湯	痰の切れにくい咳、気管支炎、気管支ぜんそく
ぼちゅうききょう 補中益気湯	消化機能が衰え、四肢倦怠感著しい虚弱体質者の次の症状:夏やせ、病後の体力増強、結核症、食欲不振、胃下垂、感冒、痔、脱肛、子宮下垂、陰萎、半身不随、多汗症
まおうとう 麻黄湯	悪寒、発熱、頭痛、腰痛、自然に汗の出ないものの次の症状:感冒、インフルエンザ(初期のもの)、関節リウマチ、ぜんそく、乳児の鼻閉塞、哺乳困難

(出所)ツムラ医療用漢方製剤の添付文書より一部抽出